

# 「こころ便り」

第300号  
令和7年3月

〒679-1434  
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八十二  
株式会社新宮運送グループ  
代表/木南 一志  
kirimami@shingu.co.jp  
電話 0791-751212



新宮運送ホームページ

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていただいております。

## 感謝

ありがとうございます。終わりの時を迎えることとなりました。

「こころ便り」の始まりは、給料が振り込みになったことで明細だけを渡すことになり、あまりに薄っぺらな給与明細を利用して社員の皆さんにメッセージを届けようと思ったのでした。当初は自分で作ったエッセイを同封していましたが、比喩的な表現や叙情詩のようなものだと真直ぐにメッセージが伝わらないと感じて今のような形になりました。

「こころ便り」は社員の皆さんにだけで、裏面の「出会い」は、石丸・前田両氏の導きで養心の会播磨の会報誌として始めたものです。

立派な背広を着ていても、大切なのは裏地なのだと思われました。人間は中身を充実させないと器が大きくはならない。そんな経営者が立派な会社をつくれるわけがないと気づかされて、裏地の大切さを感じるようになりました。富士の大村さん、下関の佐藤さんには、同じ経営者としての厳しさを教えていただきました。同時に出会った掃除が、出来の悪かった私を磨く原点となりました。

毎月一回全国各地からきてくださる講師の先生方が、ご自分の人生を赤裸々に語ってくださる養心の会播磨という存在は、感動のひと時、人生のスイッチを入れなおす機会としていただきました。

人のお世話にならぬよう  
人のお世話をするよう  
そして報いを求めぬよう

という、日本ボーイスカウト運動の創始者、後藤新平翁の言葉の通り、赤字続きの養心の会播磨を長い間続けてまいりました。その応援団の講師が中山靖雄先生や鍵山秀三郎相談役なのでした。世の中を良くしたい、穏やかな社会であってほしいと森信三先生や二宮尊徳翁の言葉をご紹介いただきながら、先人の教えや日本人の素晴らしさをたくさん教えていただきました。

複写はがきも私を育てていただいた大きな力です。鍵山相談役からいただいた複写はがきに驚いて、カーボン紙で複写するのが正しいのだと思つてメモ用紙にカーボン紙を挟んでハガキを書いたのです。その複写はがきの控えも千二百冊を越えて書いたハガキは六万枚を越えました。

ハガキ道を全国に広めてくださった坂田道信先生の「下手でいいよ」という掛け声に背中を押されて続けること

ができました。書かせていただける方がおられるからこそ、というありがたい存在の皆さまに感謝します。

ご縁をいただいで全国木鶏クラブ会長であった三木英一先生に論語セミナーをお願いして、人間学、論語や四書五経の古典を通じての学び、日本の歴史・近現代史を教えてください、兵庫縣姫路護國神社とのご縁にもつながりました。

全国に広がったお掃除のご縁の皆さまには、大きな学びや励ましをいただき、そして時には目標とさせていだいたり、知恵を拝借させていただいたりして感謝しております。掃除という簡単なことの中に、深い学びと世の中を穏やかに変えていく大きな力が潜んでいることを実感しています。

掃除と同じ時期に始めた弓道が私を導いてくれたと感謝しています。師範が教えてくださったことは、掃除の道で実感できるようになり、深い気づきとなりました。念々弓箭を忘れ、という無影心月射義を今も実践しております。

天風道を学んでいたおかげで、マイナス思考を払拭して絶対積極の道を歩むことができました。まだまだ未熟だったあの頃、天風会の皆さんに大いに励まされました。

経営者となる夢を与えていただいた

松下幸之助翁に感謝しています。

小学校六年生の時に出会った偉人伝が、私を経営者の道へと導いてくださいました。花丸をつけてくださった森本幸子先生のおかげで忘れえぬものと刻まれました。

なによりこの命を与えてくれた両親に感謝します。創業者であった父、共に苦勞を重ねた母、姉と妹ともに育てていただいたおかげです。

そして、身近な存在である家族に、社員の皆さんに感謝します。日の当たるときも風雨の中でも助け合いながら、励ましあつて取り組んでくださったことに感謝します。これから

長らくのお付き合いをいただいた皆さんに心より感謝申し上げます。月一度という実践を続けて来られたのも、これを読んでも励ましてくださる声があったからです。陰となり日向となつて支えてくださいました皆さまに感謝いたします。多くのご縁の皆さまのおかげで最終回を送らせていただくことができます。

ありがとうございます。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝